「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="2">家庭環境と中学生の心と体の健康に関する調査</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="2">我が国における、平成24年度の全国の子どもの貧困率（平均所得の半分を下回る世帯で暮らす18歳未満の子の割合）は16.3%と過去最悪の水準を示しており、年々増加の一途を辿っている。このような状況の中、貧困の深刻化への対策として、平成25年6月に子供の貧困対策の推進に関する法律、同年12月に生活困窮者自立支援法が制定・施行され、これにより、子どもの生育環境の整備、教育を受ける機会の均等や、生活支援などの子どもの貧困対策が進められている。沖縄県では、一人当たりの県民所得が全国一低い事、平成24年度の離婚率は2.59と全国（1.87）と比較して高く、ひとり親家庭の割合も上昇している事から、子どもの貧困率・相対貧困率は他県に比べて高いと予想される。（調査期間中に都道府県別貧困率が新聞掲載で発表され、沖縄県は全国最悪であった）
　経済的困窮が子どもに与えている影響として注目を浴びているのは第一に学力問題であり、全国学力テストでも、低所得世帯の子どもの学力が低いことが分析されている[1)]。しかし、経済的困窮は、学力以前の段階ともいえる子どもたちの健康、生活習慣、親子関係などにも何らかの負の影響を与えていると考えられる。米国においては、経済状況と子どもの心身の発達や健康との相関関係を示す実証研究が多数存在するが、我が国においては基礎的なデータの蓄積はない。また、経済的困窮世帯にある子どもにとって、幼少期の経済的不利益が、学歴、健康、住居、家庭環境、意欲、児童虐待など様々な面で社会的排除をもたらし、経済的困窮の世代間連鎖の要因をなりうることが指摘されており、子どもが生まれ育った環境によって選択の幅や健康状態が左右されないよう、また世代間連鎖をさせないように支援・対策等を講じていく必要があると考える。
　本プロジェクトでは、家庭環境と中学生の心と体の健康の関連について現状を把握することを目的とし、ヒアリング調査とアンケート調査を実施した。

参考文献
１）長尾秀吉，貧困問題と学校改革</td></tr>
<tr><td rowspan="2">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td>実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>6
7

8～9</td><td>アンケート調査を実施するため、調査票の作成
疫学研究倫理審査委員会へ疫学研究計画書を提出

沖縄市の中学校に訪問し、学校長へ調査協力の依頼
疫学研究計画書本審査（審査承認）
宮古島市の中学校に訪問し、学校長へ調査協力の依頼
両中学校へアンケートを配布・回収
宮古島市の中学校（養護教諭、スクールソーシャルワーカー）、宮古島市役所（家庭児童相談員、スクールソーシャルワーカー）へヒアリング</td></tr>
</table>

	１０ １１ １２～２ ３	沖縄市の中学校（養護教諭）へのヒアリング アンケート集計、データ打ち込み、沖縄市の中学校の思春期教室に参加 分析・考察 最終報告会 成果をまとめた報告書を協力いただいた学校、地域に配付（予定）
これまでに実施した活動により得られた成果	家庭環境と中学生の心と体の健康に関するアンケートやヒアリングを実施し、実際に現場の声を聞くことが出来、中学生の現状を知ることが出来た。貧困の問題は子供だけでなく家族全体の健康を考え支援を展開させていく必要があること、また、教員同士や多職種間での密な連携の大切さをとても強く感じた。 子どもには、学力面の支援以外にも生活する力、自分で考え行動する力などを含めた健康面の支援や、夢や目標をもてるようなモデルの存在が必要であると感じたので、大学生として子どもたちと関わる機会を増やし、身近な存在となり子どもたちが夢や目標をもてるような環境をつくることが大切である。	
予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）		

メンバー（代表者の氏名の後ろに※を付してください）	氏　　名	所属学部	学年	担　当　分　担
		医学部	3	
		医学部	3	
		医学部	3	

「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="2">宮古島城辺福里方言の音声教材―聞いて話せる音声教材をめざして―</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="2">このプロジェクトでは、宮古島城辺福里方言を対象に、福里方言の音声教材を作成するという取り組みを考える。本取り組みの具体的な内容としては、(1)メンバーが宮古島福里で現地調査を行い、話者から教材作成のための音声データについて録音機材を用いて収録し、(2)収集したデータから福里方言の言語学的特徴（音声的・文法的な特徴）について分析・記述を行い、(3)言語学的特徴に基づき、学習用音声教材 CD を作成する。そして、(4)年度末に、福里方言学習用音声教材 CD と、その教材手引き書及び、福里方言の文法的な概観を盛り込んだ報告書を発行し、現地の教育機関等へ配布する。
福里方言で音声教材をつくる本取り組みは、方言の記録・保存だけでなく、今後の方言継承や復興に繋がる点で地域貢献になると考える。さらに、本教材と報告書は、言語学的知見に基づいており、これまでほとんど研究されなかった福里方言について、その特徴を明らかにし、音声とともに記録保存を行うという点で学術的な意義もある。方言は年々話者が減少し、絶滅の危機に瀕している。方言がなくなるということは、それと同時に方言によって継承されてきた文化も消えてしまうことを意味する。私たちの活動で、地域の理解を深め、地域の言語や文化を継承していくことが出来ると考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="12">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td>実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>8月、9月の調査の準備（調査票づくり、前回までの調査のまとめ）</td></tr>
<tr><td>8月</td><td>宮古島での調査①、
調査のまとめ（主に音声）</td></tr>
<tr><td>9月</td><td>宮古島での調査②
調査のまとめ（主に音声、付属のテキスト）
CDとテキスト第一版作成</td></tr>
<tr><td>10月</td><td>第一版のCDとテキストの検討、修正</td></tr>
<tr><td>11月</td><td>検討をもとに、第二版のCDとテキストの作成</td></tr>
<tr><td>12月</td><td>第二版のCD、テキストの作成</td></tr>
<tr><td>1月</td><td>報告書作成、最終報告会用のレジュメ作成</td></tr>
<tr><td>2月</td><td>最終報告会</td></tr>
<tr><td>3月</td><td>成果報告書提出</td></tr>
</table>

これまでに実施した活動により得られた成果	・調査を行い、そのまとめを行ったことで宮古島福里方言の音声的な特徴や文法的な特徴を知ることができた。その調査結果をもとに、初めて福里方言を聞く人でも聞いて話せることができるようになるように、音声的な面、文法的な面からの難易度を考慮し、徐々にステップアップしていけるような構成のCDを作成することができた。 ・付属のテキストでは、福里方言の主に文法的な面の解説をおこなっている。付属のテキストを読むことで、CDからの情報に加えて、より詳しく福里方言について知ることができる。 ・「城辺スマフツ辞典」の著者である、宮里久男氏へのヒアリング調査で、福里方言を含む、宮古方言、琉球方言の保存・継承にはどのような活動が必要なのか知ることができた。
予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）	

メンバー（代表者の氏名の後ろに※を付してください）

氏　　名	所属学部	学年	担　当　分　担
	法文学部	3年	テキスト、 報告用レジュメ作成
	法文学部	3年	CD作成、 ヒアリング調査まとめ
	法文学部	3年	テキスト、 報告用レジュメ作成
	法文学部	2年	CD作成
	法文学部	2年	CD作成
	法文学部	2年	テキスト、 報告用レジュメ作成

「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="2">体験型地域コミュニケーションの実現に向けたメディアアートプロジェクト</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="2">本事業の目的は、メディアアートのノンバーバールな特性を生かして地域課題を顕在化し、実際の行動を喚起させることである。そのために、本事業ではメディアアート作品を地域に設置または提供し、作品と作品に触れる人とその様子を収めた映像などのメディアを作ることにより、地域の問題に対して目を向けてもらうことで地域への貢献を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td>実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>7, 8月

9月
9月26日
10月31日
11月上旬
12月中旬
1月上旬
2月上旬

2月17日

～現在</td><td>・音のなるゴミ箱「iTrash」のシステムを作るための、設計及び備品の購入をした
・実際にiTrashシステムを構築
・琉大祭にてシステムの運用、実施
・北谷町ハロウィーンにてシステムの運用、実施
・集めたコンテンツによる動画の作成
・階段ピアノ「iStep」システムの設計、及びプロトタイプ作り
・備品の購入、依頼先の洗い出し
・設置依頼を沖縄都市モノレールとイオンモール沖縄ライカムに打診(未だ交渉中)
・成果報告会において、資料を制作し発表を行った。

・iStepプロトタイプ第二版の製作中</td></tr>
<tr><td>これまでに実施した活動により得られた成果</td><td colspan="2">北谷町のハロウィーンでは、イベントが終わるとゴミのポイ捨てが目立つという問題があった。そこに対して、今回製作したiTrashを設置することでゴミのポイ捨て問題を改善できるのではないかと考えた。
琉球大学の宮里大八先生のご協力のもと、アメリカンビレッジ内のカーニバルパークのイベント担当の方とつながることができ、実際にiTrashを設置させていただいた。
実際に設置されたiTrashは特に子供達からの食いつきがよく、多くの人が積極的にゴミを捨てていく様子が見て取れた。

iStepの方はプロトタイプの質の問題で反応がもらえていない可能性を考慮して、より具体性を増したプロトタイプを製作中。
先方がNGだった場合は琉球大学内への設置も検討中。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）</td><td colspan="4">iStep(階段ピアノ)の実施。
人が多く通り、エスカレータやエレベータなどの比較をするためにそのような設備のある2社に設置の交渉をした。プロダクトの構成上、どうしても階段のサイズを考慮して制作しなくてはならないため、許可をもらって階段のサイズに合わせてプロダクトを設置しようとしたが、交渉が思うように進められなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="10">メンバー
（代表者の氏名の後ろに※を付してください）</td><td>氏　　名</td><td>所属学部</td><td>学年</td><td>担　当　分　担</td></tr>
<tr><td></td><td>工学部</td><td>3</td><td>マネジメント・ハードウェア構築・システム設計・雑用</td></tr>
<tr><td></td><td>工学部</td><td>2年</td><td>システム構築・プログラマー</td></tr>
<tr><td></td><td>理学部</td><td>1年</td><td>デザイン・コネクター・プロポーザー</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="5">沖縄ヤギ文化復興プロジェクト</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="5">⑴沖縄のヤギ文化を復興させ、ヤギへの親しみを高める
⑵沖縄県北部のヤギ畜産農家との協働
⑶ヤギミルク、ヤギ汁、ヤギ肉の若者への浸透
⑷ヤギ文化に関する調査や分析
→名護市屋部・勝山でのヤギに関する実態調査
→ヤギ文化/料理への意識調査
→琉球大学農学部の教授（砂川教授、長嶺助教授）と連携
⑸県外修学旅行生向けのヤギ文化体験を実施
→沖縄ヤギ文化の認知
→継続したヤギ文化継承のための収益源として</td></tr>
<tr><td rowspan="8">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td colspan="4">実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>7月</td><td colspan="4">勝山地区でのヤギ農家フィールドワーク</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">ヤギ農家への聞き取り調査</td></tr>
<tr><td>9月</td><td colspan="4">ヤギ文化に関する勉強会・調査</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">ヤギフィールドワークのプログラム化</td></tr>
<tr><td>10月</td><td colspan="4">創作ヤギ料理の研究・調査＠BAR囲</td></tr>
<tr><td>12月</td><td colspan="4">フィールドワーク「ヤギ旅」教材案検討会、場所の検討会</td></tr>
<tr><td>1月</td><td colspan="4">「ヤギ旅」の教材作成</td></tr>
<tr><td>2月</td><td colspan="4">報告会</td></tr>
<tr><td>これまでに実施した活動により得られた成果</td><td colspan="5">・ヤギ農家の現状について農家から話を聞くことができた
・RBC「島人ぬ宝」にてフィールドワークの取材を受けた＝PR映像
・資料を探し、ヤギ文化に関す勉強会を行い、詳しい知識を得た
・創作ヤギ料理を調査し試食したことで新しいヤギ文化の在り方を知った
・ヤギ文化について学べる「ヤギ旅」を作った
・生徒向けの教材を開発した</td></tr>
<tr><td>予定していたが実施できなかったこと・理由</td><td colspan="5">⑴ヤギ文化に関する若者へのアンケート調査
予定していた琉球大学の学園祭に間に合わず、実施ができなかった。その代わりにグループインタビューを実施し、リアルな声を聞き、そこに対応する企画を製作した。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">メンバー
（代表者の氏名の後ろに※を付してください）</td><td colspan="2">氏　　名</td><td>所属学部</td><td>学年</td><td>担　当　分　担</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>法文学部</td><td>４</td><td>企画立案・統括</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>教育学部</td><td>３</td><td>教材開発</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>農学部</td><td>３</td><td>ヤギに関する知識提供</td></tr>
</table>

「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="2">元気プロジェクト in 久米島（商品開発班）</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="2">宮古や石垣に比べ、久米島の知名度が格段に低い現状から、久米島に人を呼び込んで活性化を図るためにツアーとお土産の開発をする。
ツアー開発は、見どころや観光スポットの多い久米島の魅力を活かし、自然に癒されながら語り合ったり、マリンスポーツを楽しんで思い出を作る 2 泊 3 日の卒業旅行の制作。お土産開発は久米島の知名度アップを図るためにどこにでもお届けできる久米島の特産品を使ったお土産を作ること。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td>実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>7</td><td>・久米島の特産品調べ、25個ほどお土産商品の案を出した</td></tr>
<tr><td>8</td><td>・離島マルシェの白鳥様とのミーティングをし、アドバイスを頂いた
・事前調査に向け、久米島観光協会、久米島商工会盛吉様にアポ取り
・ツアー開発の為島の観光名所を久米島出身の友人に聞込み調査
・地域交流班にアンケートお土産、久米島の名所はどこか問う質問を入れてもらった
・第一回お土産試作会 久米島のみそをソースに、久米島の野菜をトッピングしたピザと、久米島産の紅芋を生地に練りこんだクレープを試作した。ピザは久米島のみその塩分の高さで塩辛くなった。クレープは紅芋の色が焼きあがると上手く出ず、見た目が悪くなり、断念
・元気プロジェクトin久米島チーム中間発表　現状報告
・離島マルシェ白鳥様とミーティング(商品の売れる見込みをもっと高める為ターゲットを絞る事、白鳥様が販売している商品の開発の様子を伺い、事前調査に備えた)
・各旅行会社が販売中の久米島のツアーを調べ、価格やキャンペーンの相場を把握
・事前調査で訪問した際の質問、訪問先の方へのちゅらプロと商品開発の自己紹介文の作成
・離島マルシェに訪問　商品の販売形態(お中元・お歳暮・冷凍食品等々)ツアーのアウトプット方法についてお話を伺う
・ターゲットはファミリー層、お土産商品は久米島の知名度が上がるよう、発送などもでき、お手軽おやつ感覚のお土産に。
ツアーのコンセプトも久米島に宮崎駿監督のトトロの森ができるという事で「ファミリーで癒しの旅」に決定。
・本調査の日程調整(訪問先へのアポ取りや民宿、フェリー、レンタカーの手配など)</td></tr>
<tr><td>9</td><td>・事前調査 in 久米島(下地先生、仲村渠、金城、嘉数)</td></tr>
</table>

		久米島のお土産開発状況の把握、開発のノウハウを教えて頂いた。 島出身の友人おすすめスポット視察 ・本調査へ向け、更にツアー・お土産のアイディアを出した ・第二回試作会もずく揚げ団子、紅芋もちもちかりんとうを作るも失敗
	10	・第三回試作会紅芋チュロス、ウミガメタルトが成功した。 ・本調査 食のトレンドセミナー、久米島観光協会の仲宗根様とのミーティング、保久村さん達とニブチの森散策、ナイトウォーク、久米島観光名所視察、赤嶺パイン園さん訪問、ローゼルジャムを製造している与座さんを訪問、深層水製造工場視察 ツアーは、テーマを「卒業旅行」に変更 ・第四回試作会ウミガメタルトにパインとローゼルのジャムを使用。 チュロスは紅芋を蒸かして使用し、紅芋感アップ ・県外在住の200人の大学生に久米島のツアーについてアンケートを実施。 ・作成したツアーをオリオンツアーさんに提出
	11	・ツアーはオリオンツアーさんの進捗待ち状態 ・第五回試作品づくり ・ナンポー通商の安里様に商品化についての相談をした
	12	久米エイジェンシー様を仲宗根様に紹介してもらった ツアー練り直し
	1	久米エイジェンシー様にうみがめプロジェクトを提案
	2	久米島観光協会様にツアープランを提出
これまでに実施した活動により得られた成果	実際に島に訪問してみて、久米島には観光名所が沢山あるという事がわかり、卒業旅行のプランを完成させることが出来たが、ツアーのメインのアクティビティーの代替案が未決定です。 お土産開発は、より久米島産の食材を使用した紅芋チュロスとウミガメタルトを開発できました。商品化をするにあたり、工場にサポートしてもらって製造するには資金が必要なので、予算の面で問題を抱えていましたが、「ウミガメ」で久米島のイメージを作り、地域おこしをしようというアウトプット方法にします。そのイメージを作るために久米島の飲食店や食品を製造している店に私達が発案した二品を提案します。また、よりウミガメのイメージを定着させるため、ウミガメモチーフのパッケージや商品を増やすことを促します。	

予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）	うみがめタルト・紅芋タルトの商品化（実際に商品化するには賞味期限をテスティングするのに1年以上を要することと、原材料にコストがかかってしまうため、お土産の価格が高額になってしまう事、島で商品を生産する人・会社が見つからなかった事などが主な原因です。）

	氏　　名	所属学部	学年	担　当　分　担
メンバー（代表者の氏名の後ろに※を付してください）		観光産業科	1	リーダー兼お土産開発
		観光産業科	1	お土産開発
		観光産業科	1	お土産開発
		観光産業科	1	ツアー開発
		観光産業科	1	ツアー開発兼書記
		観光産業科	1	ツアー開発兼写真係
		観光産業科	2	ツアー開発
		観光産業科	2	ツアー開発
		観光産業科	2	ツアー開発

「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="2">元気プロジェクトin久米島　地域交流班</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="2">久米島の観光の現状として、石垣島・宮古島など他の離島に比べ観光客の数が伸び悩んでいる課題が挙げられます。そこで私たちは、久米島観光の活性化策を学生の視点で検討したいと考えました。本プロジェクトの中でも地域交流班は、島嶼地域の高校生以上の若者が、進学や就職で島外へ流出しているという問題に着目し、久米島島民と私たちのような大学生との交流を通して、地域の活性化の一助となることを目的に活動しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td>実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>9月
9月15日
10月2～4日

10 月～2 月上旬
2 月 17 日</td><td>久米島高校を対象としたアンケート調査資料作成
久米島事前調査（代表仲村渠のみ）
久米島本調査（メンバー6 人全員）
→琉大フェスティバル in 久米島の実施（知のふるさと納税と共同）
アンケート調査結果の集計・分析、報告書、パワーポイント作成
最終報告会</td></tr>
<tr><td>これまでに実施した活動により得られた成果</td><td colspan="2">琉大フェスティバルin久米島では、地域の子供達を中心に保護者や地域の住民の方々と交流した。普段、高校生以上の若者との接点の薄い久米島の子供達とのつながりを持つことで、新たな視点を持つきっかけを提供することができた。また、久米島町の方や、久米島町観光協会・久米島町役場の方からこの事業を継続して欲しいとの要望があった。
琉大フェスティバルin久米島で交流した幼年期・青年期の方々との交流以外にも、実際に久米島で仕事をしている壮年期の方、退職した老年期の方々に話を伺い、様々な意見を得ることができた。久米島では、各字ごとのつながりはあるが、島全体でのまとまりは薄いということが見えた。
久米島高校へのアンケート調査からは、離島に住む高校生が抱えている現状や課題がみられた。また、観光業について質問したところ、観光客の受け入れにほとんどの生徒が積極的であることがわかった。</td></tr>
<tr><td>予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）</td><td colspan="2">琉大フェスティバルin久米島で使用した観光科学科や外国について説明する展示ボードを、大学や観光科学科の紹介の為に、オープンキャンパスや久米島高校などでの設置を考えていたが、機会がなかった為実施しなかった。</td></tr>
</table>

	氏　　名	所属学部	学年	担　当　分　担
メンバー （代表者の氏名の後ろに※を付してください）		観光産業科学部 観光科学科		地域交流班
		観光産業科学部 観光科学科	２年次	地域交流班
		観光産業科学部 観光科学科	１年次	地域交流班
		観光産業科学部 観光科学科	１年次	地域交流班
		観光産業科学部 観光科学科	１年次	地域交流班
		観光産業科学部 観光科学科	１年次	地域交流班

平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書
元気プロジェクト in 久米島
環境班

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="5">元気プロジェクト in 久米島</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="5">＜環境班＞
本事業の目的は久米島の観光資源である自然が観光の発展により崩れてしまっている現状を知り、久米島の方と一体となって自然を守っていくことの難しさと大切さを学ぶとともに、久米島の自然の魅力を多くの人たちに知ってもらうための活動を「観光と環境を win win に」をモットーに進めていきました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td colspan="4">実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>８月
９月

10月
２月</td><td colspan="4">ミーティングを重ね案を出す
久米島の自然に詳しい佐藤さんのシンポジウム参加
基礎調査　日帰りで久米島へ
本調査
最終報告会</td></tr>
<tr><td>これまでに実施した活動により得られた成果</td><td colspan="5">久米島での本調査にて、下調べをもとに漂着ゴミが多いといわれている観光地「立神海岸」の清掃を地域の方とともに行った。この活動により、久米島の観光と自然がうまく成り立たせるためにどうすればいいのか久米島観光協会の方とお話しした。その結果、沖縄本島の小学生が参加する民宿プログラムの企画に立神海岸清掃を取り入れることができた。結果、久米島の自然とともにエコツーリズムを体感できる場が実現できた。また、私たちの活動と、久米島の漂着ゴミの現状を知ってもらうためのトライフォールドの作成をした。</td></tr>
<tr><td>予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）</td><td colspan="5">久米島で行われるレゲエフェス「ワンラブ」に清掃活動を取り入れる。
ワンラブの主催者の方と連絡を取り、清掃活動を取り入れてほしいという提案をしたところ、前向きに取り組んでみますとのお返事をいただきました。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">メンバー（代表者の氏名の後ろに※を付してくだ</td><td colspan="2">氏　　名</td><td>所属学部</td><td>学年</td><td>担　当　分　担</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>観光産業科</td><td>1</td><td>環境班</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>観光産業科</td><td>1</td><td>環境班</td></tr>
</table>

さい）		観光産業科	2	環境班
		観光産業科	1	環境班
		観光産業科	2	環境班
		観光産業科	2	環境班

「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業における
平成２７年度地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）最終報告書（様式）

<table>
<tr><td>プロジェクトの名称</td><td colspan="4">週末農業の会＠名護東海岸</td></tr>
<tr><td>プロジェクトの目的・概要</td><td colspan="4">名護東海岸において週末の農業のお手伝いの機会を作ることによって、都市×農村交流の場をつくり、交流を通して場所とつながるきっかけづくりを行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">これまでに実施した活動</td><td>月</td><td colspan="3">実施した活動内容</td></tr>
<tr><td>8月5日</td><td colspan="3">かぼちゃ植え付け準備（比嘉家）</td></tr>
<tr><td>8月8日</td><td colspan="3">かぼちゃ植え付け準備（比嘉家）</td></tr>
<tr><td>9月3日</td><td colspan="3">ビニールハウス修復（桑江家）</td></tr>
<tr><td>10月6日</td><td colspan="3">施肥作業（仲村民博家）</td></tr>
<tr><td>12月30日</td><td colspan="3">草刈り（仲村千恵子家）</td></tr>
<tr><td>これまでに実施した活動により得られた成果</td><td colspan="4">・一つ一つの作業を終わらせることができたこと
・延べ人数 19 名の学生が参加してた
（うち県内 15 名、県外 4 名）
・農家さんとの交流の場につながった</td></tr>
<tr><td>予定していたが実施できなかったこと・理由（該当事項がある場合は記入してください）</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">メンバー（代表者の氏名の後ろに※を付してください）</td><td>氏　　名</td><td>所属学部</td><td>学年</td><td>担　当　分　担</td></tr>
<tr><td></td><td>観光産業科学部</td><td>３</td><td>農作業リーダー</td></tr>
<tr><td></td><td>法文学部</td><td>３</td><td>農作業リーダー</td></tr>
<tr><td></td><td>農学部</td><td>２</td><td>農作業リーダー</td></tr>
<tr><td></td><td>農学部</td><td>４</td><td>現地との調整、農作業リーダー</td></tr>
</table>